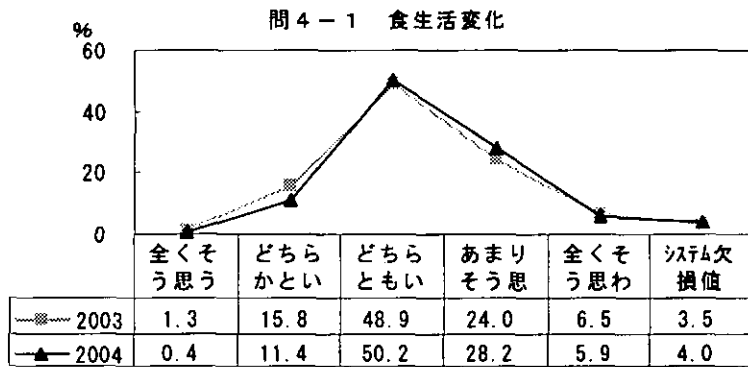


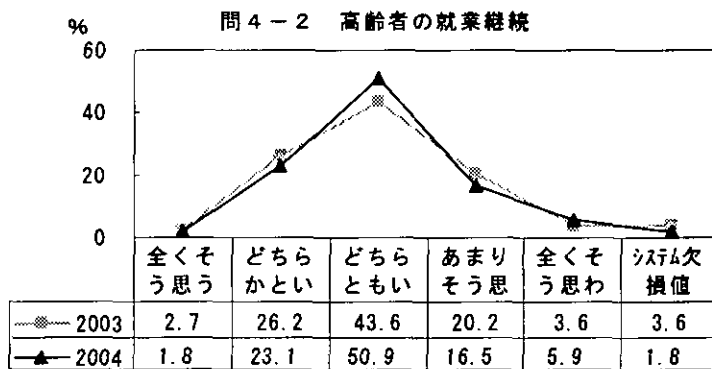
▲生活習慣病患者や要介護老人にならないように食生活が変わってきた



2003年調査 : 平均=3.19 標準偏差=0.84

2004年デルファイ調査 : 平均=3.29 標準偏差=0.77

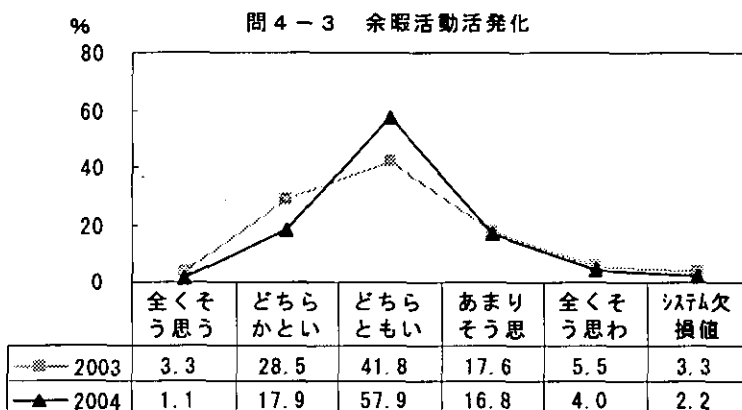
▲多様な形態で仕事を続ける高齢者が多くなった



2003年調査 : 平均=2.96 標準偏差=0.86

2004年デルファイ調査 : 平均=3.01 標準偏差=0.85

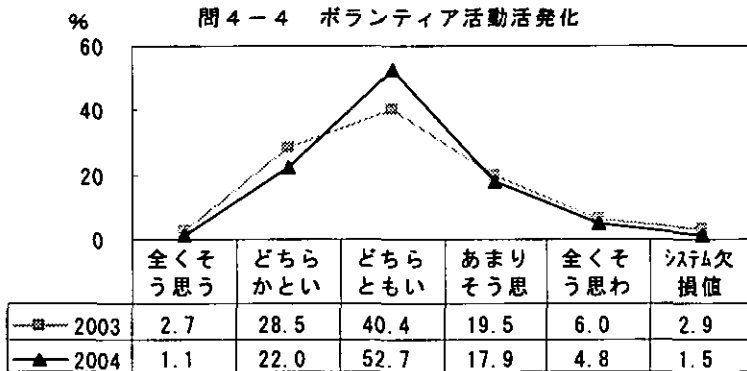
▲余暇活動（スポーツ、文化活動、学習活動、旅行など）が盛んになってきた



2003年調査 : 平均=2.93 標準偏差=0.91

2004年デルファイ調査 : 平均=3.05 標準偏差=0.75

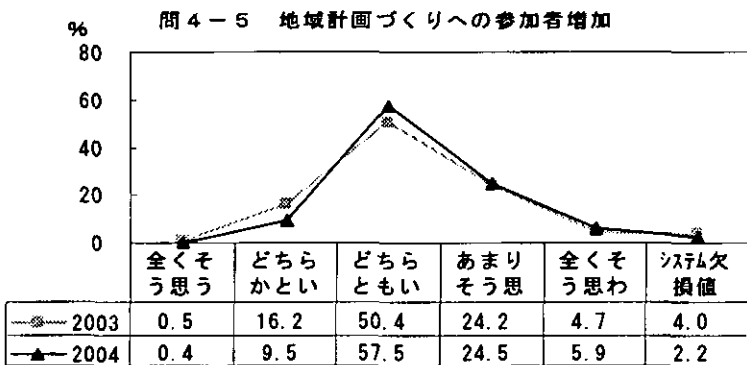
▲ボランティア活動が盛んに行われはじめた



2003年調査 : 平均=2.97 標準偏差=0.92

2004年デルファイ調査 : 平均=3.03 標準偏差=0.80

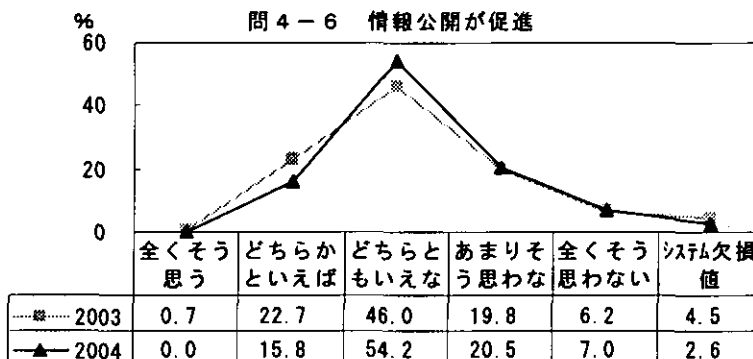
▲地域の計画づくりなどに積極的に参加する人々が多くなった



2003年調査 : 平均=3.17 標準偏差=0.78

2004年デルファイ調査 : 平均=3.27 標準偏差=0.73

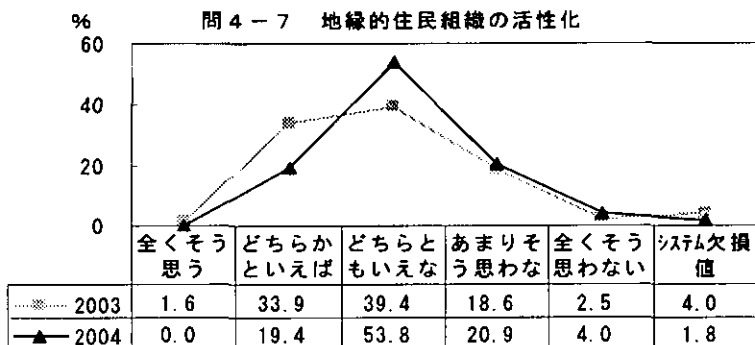
▲行政の情報公開が促進されるようになった



2003年調査 : 平均=3.08 標準偏差=0.85

2004年デルファイ調査 : 平均=3.19 標準偏差=0.79

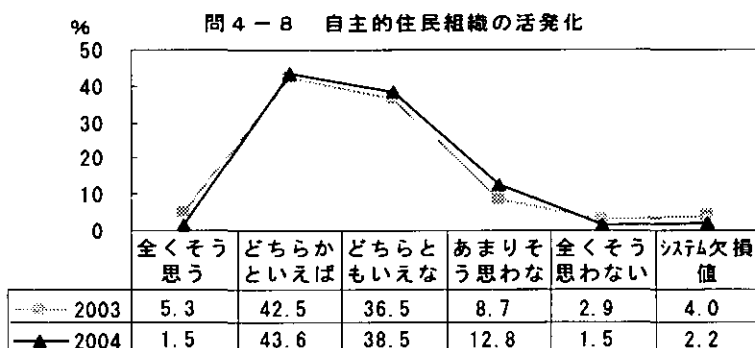
▲集落、自治会、区会、地区社会福祉協議会など地縁的な住民組織への参加が盛んになった



2003年調査 : 平均=3.13 標準偏差=0.82

2004年デルファイ調査 : 平均=3.10 標準偏差=0.75

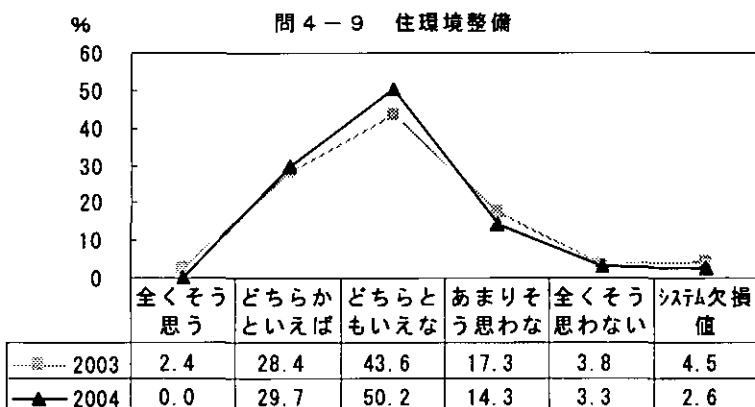
▲自主的な住民組織（いきいきサロンや健康づくりサークルなど）が生まれてきた



2003年調査 : 平均=2.60 標準偏差=0.85

2004年デルファイ調査 : 平均=2.69 標準偏差=0.77

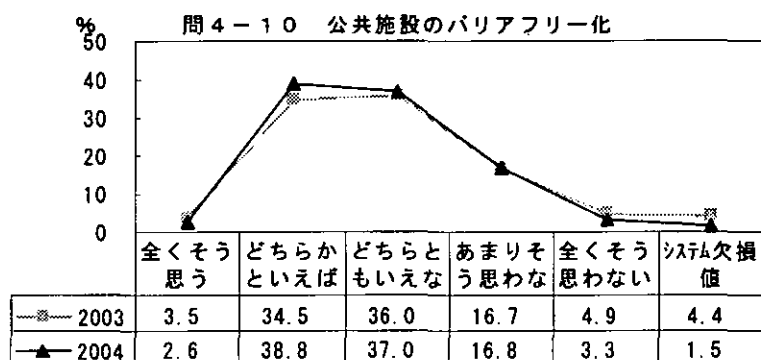
▲住宅の改善や住環境整備への取り組みが進んだ



2003年調査 : 平均=2.91 標準偏差=0.86

2004年デルファイ調査 : 平均=2.91 標準偏差=0.76

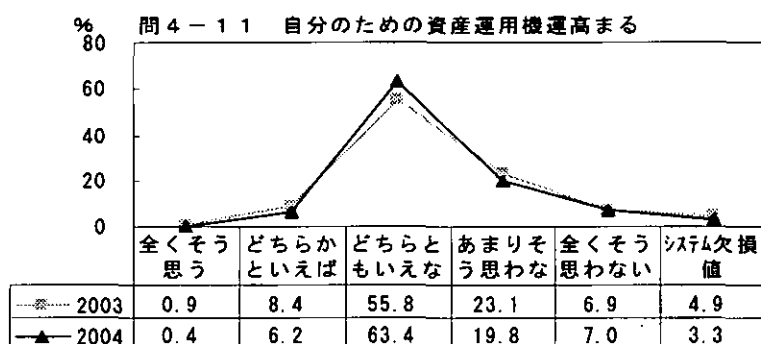
▲公共施設のバリアフリー化が進んだ



2003年調査 : 平均=2.84 標準偏差=0.93

2004年デルファイ調査 : 平均=2.79 標準偏差=0.87

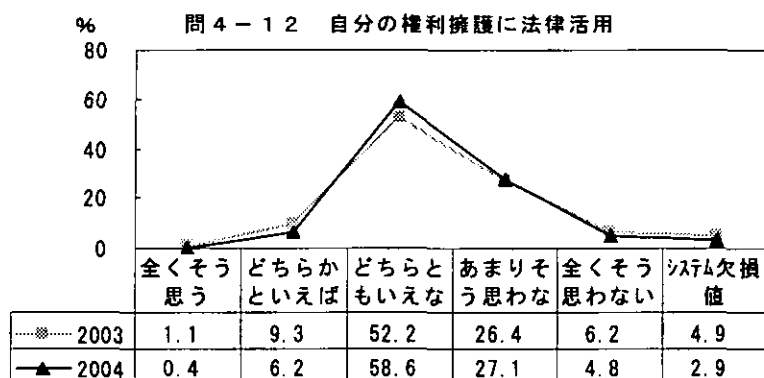
▲自分自身のために資産を運用しようとする機運が高まった



2003年調査 : 平均=3.28 標準偏差=0.76

2004年デルファイ調査 : 平均=3.28 標準偏差=0.71

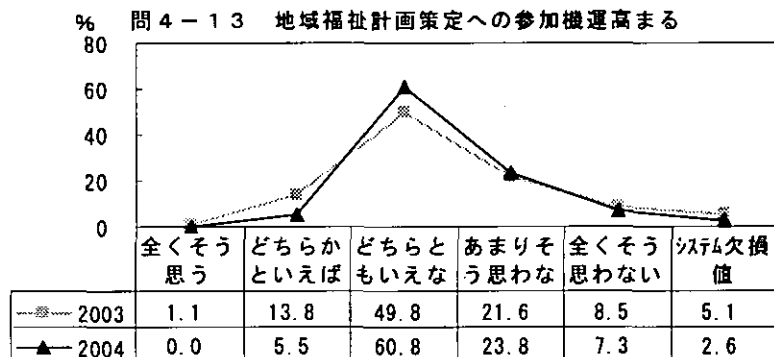
▲自分自身の権利を擁護するよう、法律に基づいて行動するようになった



2003年調査 : 平均=3.29 標準偏差=0.77

2004年デルファイ調査 : 平均=3.31 標準偏差=0.68

▲各市町村で策定作業が始まる地域福祉計画づくりに参加しようとする機運が高まっている

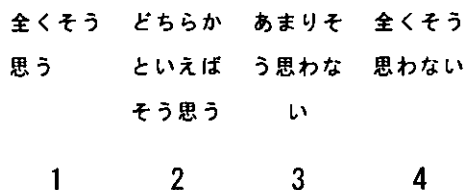


2003年調査 : 平均=3.24 標準偏差=0.85

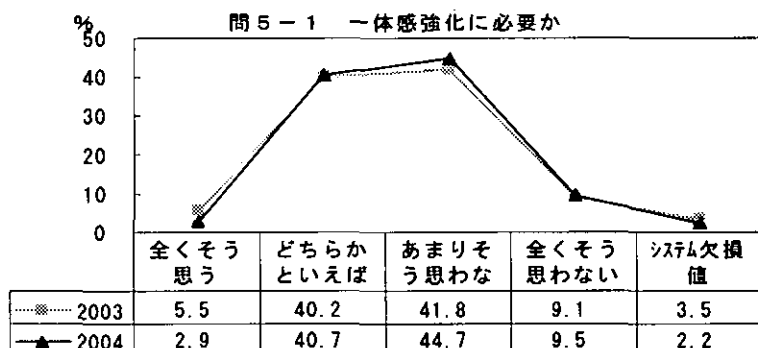
2004年デルファイ調査 : 平均=3.34 標準偏差=0.70

<「周防大島モデル居住圏構想」関連事業について>

▲問5 元気・にこにこ・安心の島づくりフェスティバル



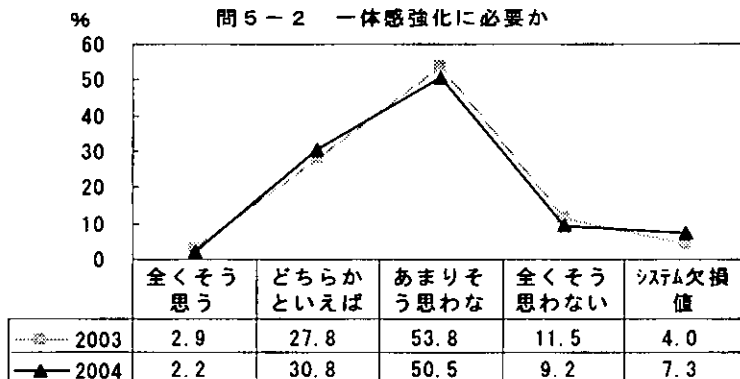
▲問5-1 (■問17) この取り組みは、大島郡住民の一体感を強めるという目的のために必要なものだと思いますか



2003年調査 : 平均=2.56 標準偏差=0.74

2004年デルファイ調査 : 平均=2.62 標準偏差=0.70

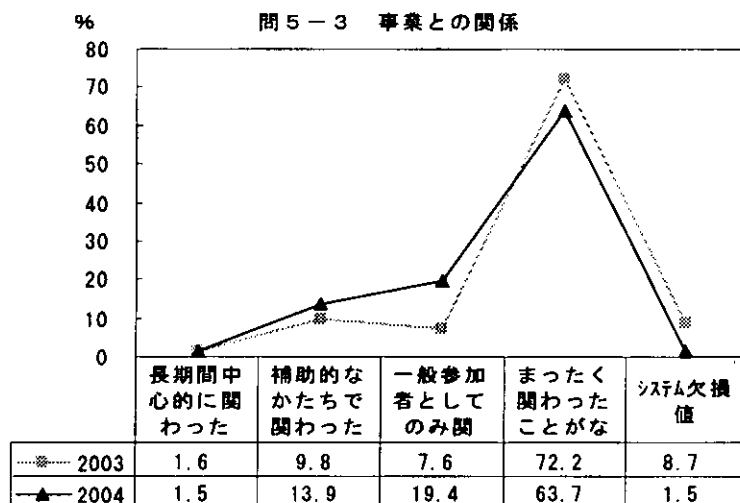
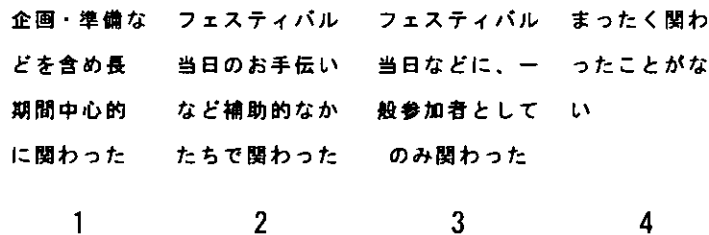
▲問5-2 (■問18) この取り組みは、大島郡住民の一体感を強めるという目的のために必要なものだと思いますか (※調査票の作成ミスで前設問と重複)



2003年調査 : 平均=2.77 標準偏差=0.69

2004年デルファイ調査 : 平均=2.72 標準偏差=0.67

▲問5-3 (■問19) あなたご自身、この取り組みに何らかのかたちで関わりがありますか

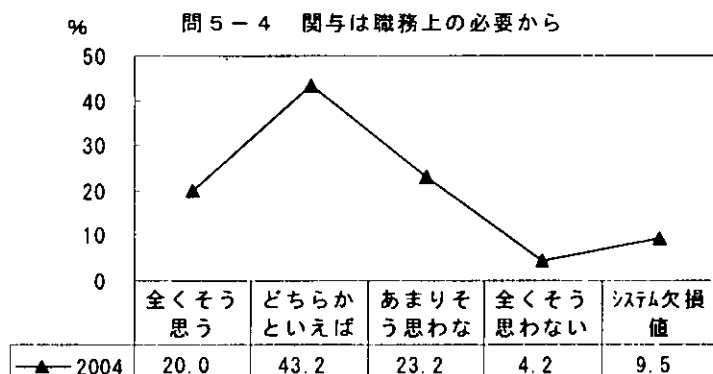


2003年調査 : 平均=3.67 標準偏差=0.76

2004年デルファイ調査 : 平均=3.48 標準偏差=0.79

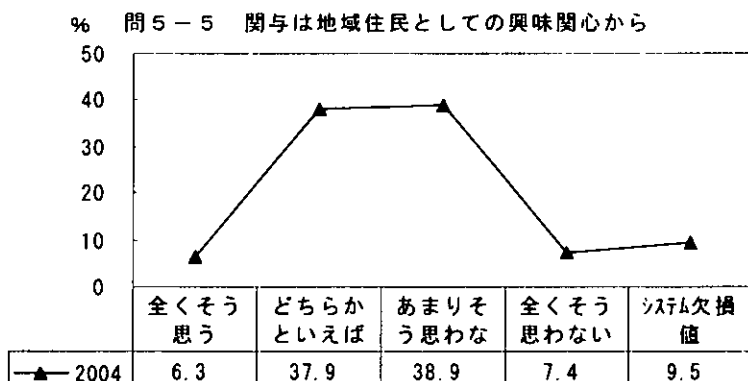
(以下2設問は、▲問5-3で「まったく関わったことがない」回答者を除いた。n=95)

▲問5-4 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、ご自分の職務上(行政職・専門職など)の必要性があったからですか



2004年デルファイ調査：平均=2.13 標準偏差=0.81

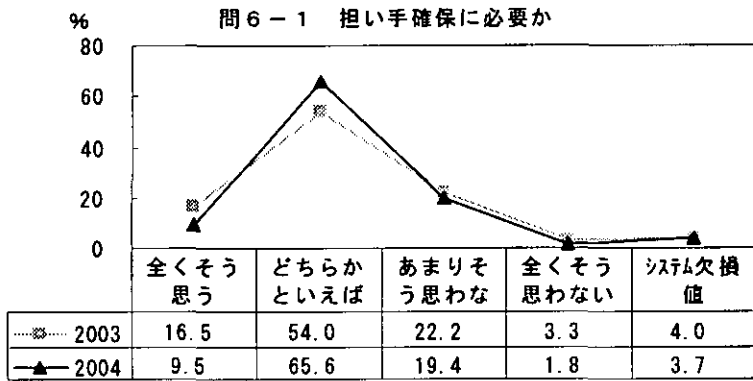
▲問5-5 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、地域社会の一員として興味関心があったからですか



2004年デルファイ調査：平均=2.52 標準偏差=0.75

▲問6 元気・にこにこ・安心の島づくりフェスティバル

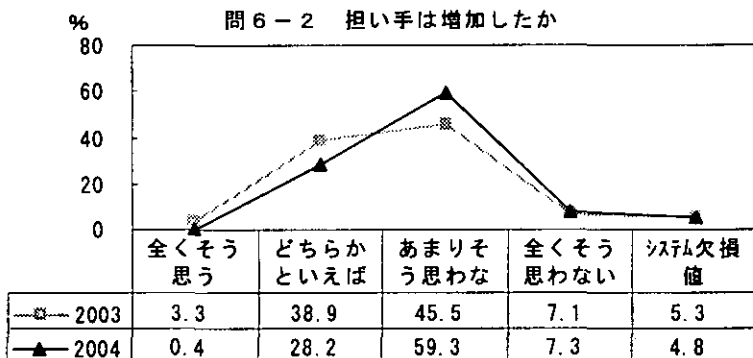
▲問6-1 (■問2-4) この取り組みは、地域の新たな担い手を確保するという目的のために必要なものだと思いますか



2003年調査 : 平均=2.13 標準偏差=0.72

2004年デルファイ調査 : 平均=2.14 標準偏差=0.60

▲問6-2 (■問25) この取り組みによって、地域の新たな担い手が増えている、あるいは増えそうだと思いますか

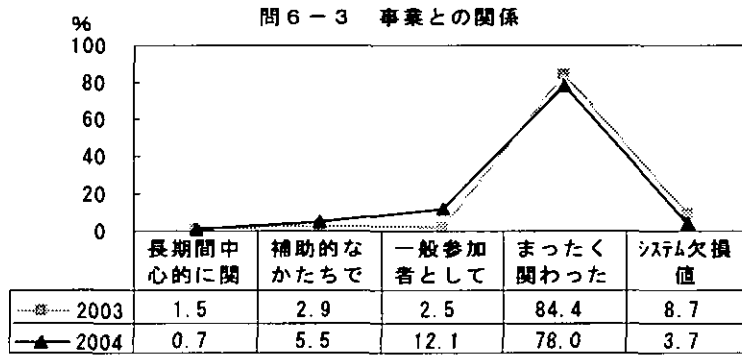


2003年調査 : 平均=2.60 標準偏差=0.68

2004年デルファイ調査 : 平均=2.77 標準偏差=0.58

▲問6-3 (■問26) あなたご自身、この取り組みに何らかのかたちで関わりがありますか

企画・準備な どを含め長 期間中心的 に関わった	イベントのお手 伝いや情報提供 など補助的な たちで関わった	イベント当日な どに、一般参加 者としてのみ関 わった	まったく関わ ったことがな い
1	2	3	4

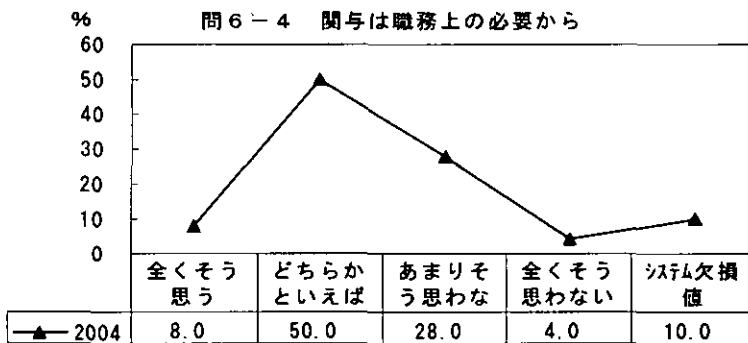


2003年調査 : 平均=3.88 標準偏差=0.55

2004年デルファイ調査 : 平均=3.74 標準偏差=0.60

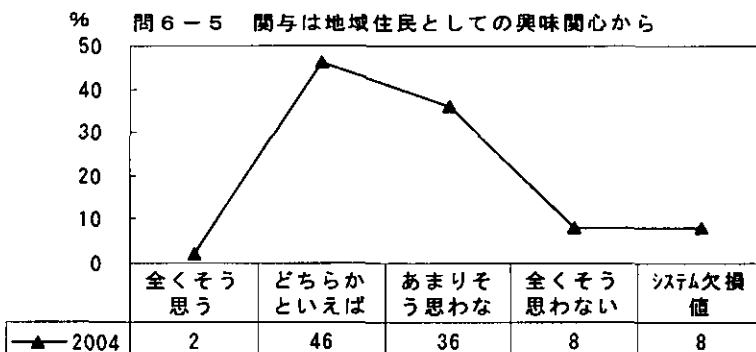
(以下2設問は、▲問6-3で「まったく関わったことがない」回答者を除いた。n=50)

▲問6-4 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、ご自分の職務上(行政職・専門職など)の必要性があったからですか



2004年デルファイ調査 : 平均=2.31 標準偏差=0.70

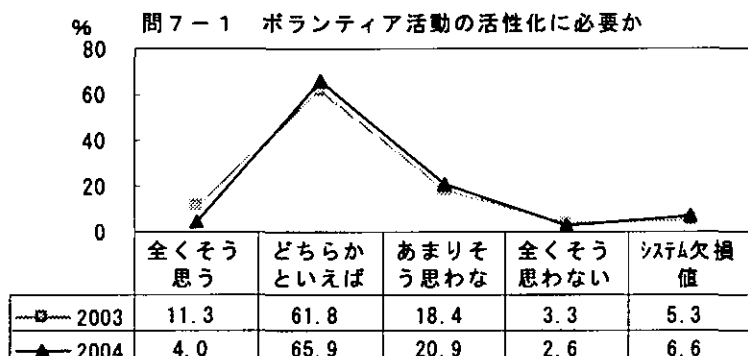
▲問6-5 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、地域社会の一員として興味関心があったからですか



2004年デルファイ調査 : 平均=2.54 標準偏差=0.69

▲問7 周防大島すこやかほほえみネット関連事業

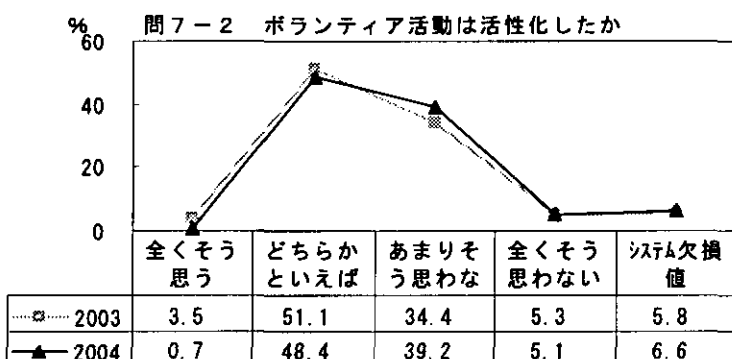
▲問7-1 (■問3 1) この取り組みは、ボランティア活動を活発にするという目的のために必要なものだと思いますか



2003年調査 : 平均=2.14 標準偏差=0.66

2004年デルファイ調査 : 平均=2.24 標準偏差=0.57

▲問7-2 (■問3 2) この取り組みによって、ボランティア活動は活発になっている、あるいは活発になりそうだと思いますか

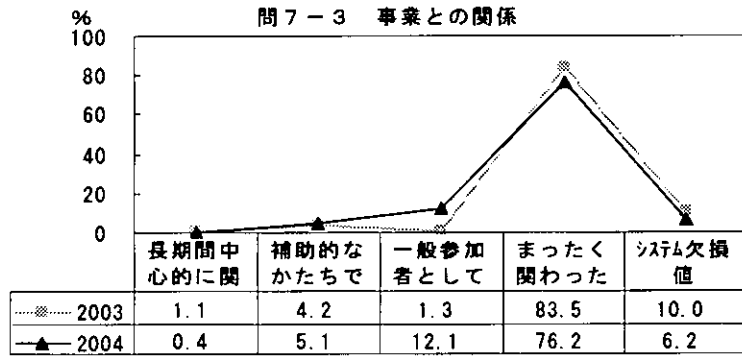


2003年調査 : 平均=2.44 標準偏差=0.66

2004年デルファイ調査 : 平均=2.52 標準偏差=0.61

▲問7-3 (■問3 3) あなたご自身、この取り組みに何らかのかたちで関わりがありますか

企画・準備などを含め、期間中心的に関わった	当日のお手伝いや情報提供など補助的なかたちで関わった	視察・研修やあっせんなどに、参加者(補助者)としてのみ関わった	まったく関わったことがない
1	2	3	4

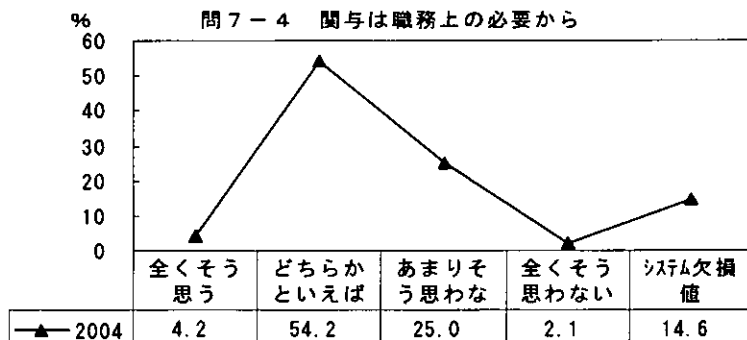


2003年調査 : 平均=3.86 標準偏差=0.58

2004年デルファイ調査 : 平均=3.75 標準偏差=0.57

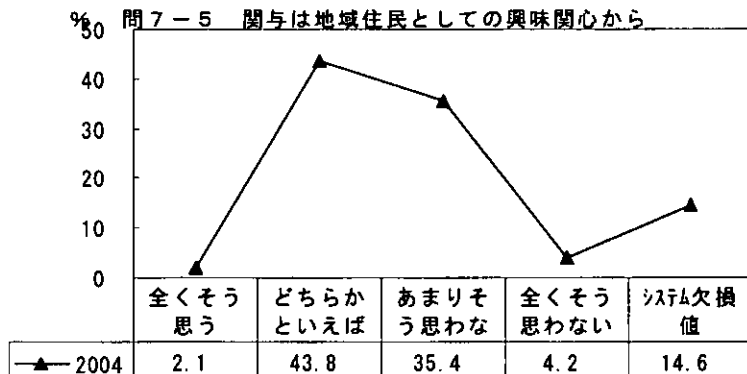
(以下2設問は、▲問7-3で「まったく関わったことがない」回答者を除いた。n=48)

▲問7-4 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、ご自分の職務上(行政職・専門職など)の必要性があったからですか



2004年デルファイ調査 : 平均=2.29 標準偏差=0.60

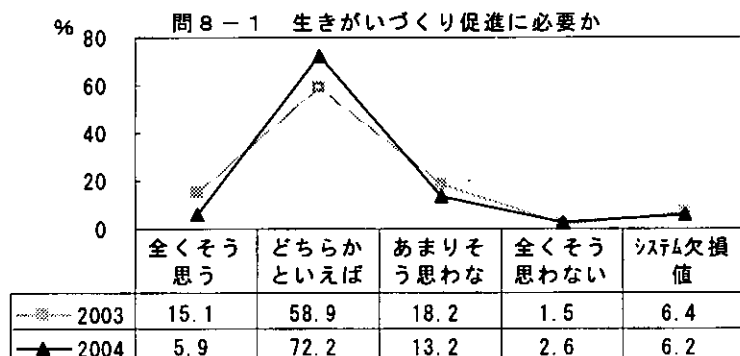
▲問7-5 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、地域社会の一員として興味関心があったからですか



2004年デルファイ調査 : 平均=2.49 標準偏差=0.64

▲問8 生涯現役就労施設整備調査研究事業（生涯現役就労の場づくりモデル事業）

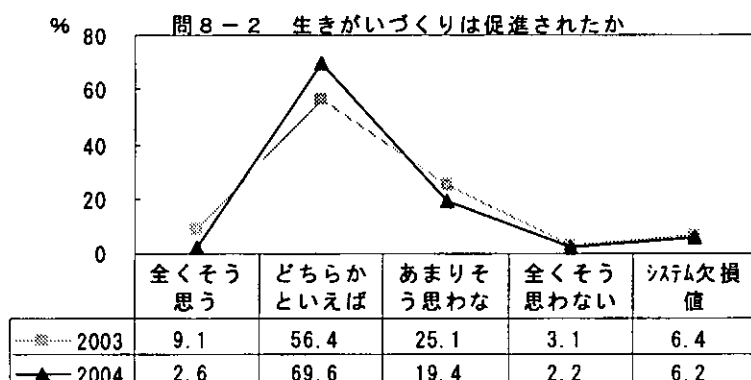
▲問8-1（■問38） この取り組みは、高齢者の健康づくり・生きがいを促進するという目的のために必要なものだと思いますか。



2003年調査 : 平均=2.06 標準偏差=0.64

2004年デルファイ調査 : 平均=2.13 標準偏差=0.54

▲問8-2（■問39） この取り組みによって、高齢者の健康づくり・生きがいを促進される、あるいは促進されそうだと思いますか

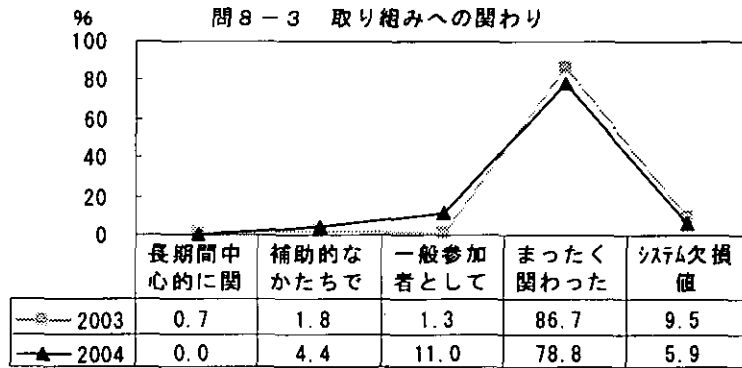


2003年調査 : 平均=2.24 標準偏差=0.66

2004年デルファイ調査 : 平均=2.52 標準偏差=0.61

▲問8-3（■問40） あなたご自身、この取り組みに何らかのかたちで関わりがありますか

企画・準備な どを含め長 期間中心的 に関わった	当日のお手伝い や情報提供など 補助的なかたち で関わった	イベント当日な どに、一般参加 者としてののみ 関わった	まったく関わ ったことがな い
1	2	3	4

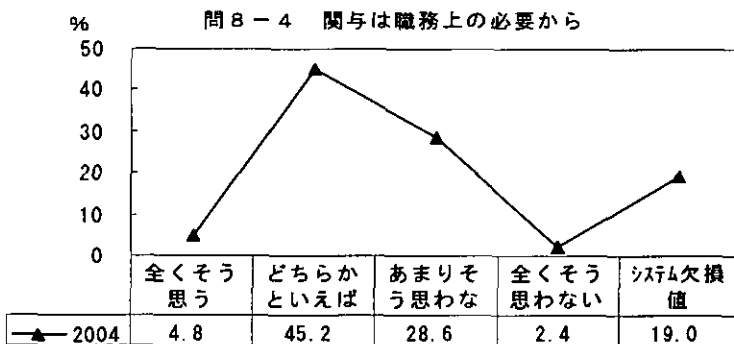


2003年調査 : 平均=3.93 標準偏差=0.42

2004年デルファイ調査 : 平均=3.79 標準偏差=0.51

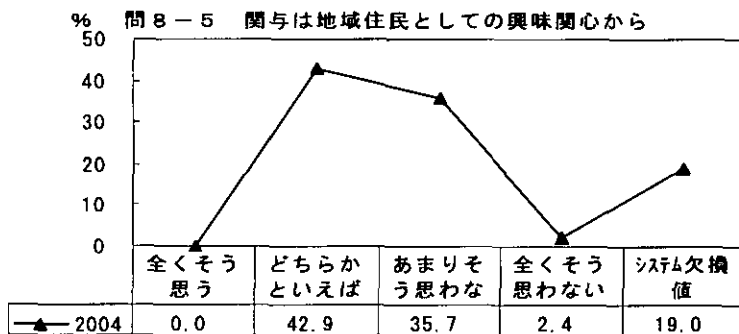
(以下2設問は、▲問8-3で「まったく関わったことがない」回答者を除いた。n=42)

▲問8-4 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、ご自分の職務上(行政職・専門職など)の必要性があったからですか



2004年デルファイ調査 : 平均=2.35 標準偏差=0.65

▲問8-5 (2003年調査に該当設問なし) あなたがこの取り組みへ関わりをもったのは、地域社会の一員として興味関心があったからですか



2004年デルファイ調査 : 平均=2.50 標準偏差=0.56

第4節 調査結果についての若干のコメント

冒頭で触れたように、デルファイ調査はその設計上、意見の集約をするのに適している。上掲してきた数多くの折れ線グラフにプロットされた回答結果をみると、度数分布の山や谷の形は2003年データも2004年データもほぼ同一で、若干2004年データのほうがピークが高いというのが大部分である。そこで、同一内容設問での2003年データと2004年データの回答の標準偏差（ばらつきの度合い）の値を比較することにより、そうした意見の集約機能が果たされているかがより明らかとなる。

そこでそれらの値を眺めてみると、たしかにほとんどの設問において、2003年データより2004年データの方が標準偏差は小さい。いいかえるとデータのばらつきが少ないわけであり、デルファイ調査において期待される意見の集約機能が果たされている。こうした傾向は、2003年調査と2004年デルファイ調査の調査時点の間にあるほぼ1年間の時間にもかかわらず、おおむね、どの設問においても妥当している。2003年調査結果を記載した2004年デルファイ調査票を介して、回答者間の同調が起きているのであろう。

若干の例外となっているのが▲問5-3（■問19）、▲問6-3（■問26）、▲問8-3（■問40）である。これらの設問はいずれも、「モデル居住圏構想」関連事業への回答者の関わりをたずねており、なおかつ「まったく関わったことがない」人々が大部分を占める。（そのため回答結果のばらつき自体も他設問より小さい。）今回のデルファイ調査の回答率（35%）から考えれば、2004年調査における回答者は調査対象全体のなかでも比較的調査に協力的な層に集中している。そうした人々は各種の事業への関与の度合いが相対的に多い層とたぶん重なり合う。そのため2003年データにくらべて、2004年データの方が各種事業への何らかの関わりを持つとの回答者比率が高くなり、結果として回答のばらつき具合も高目に出ている。

また、意図せずして興味をひく結果が現れたのが▲問5-1（■問17）および▲問5-2（■問18）である。校正ミスによってこの2つの設問は同一のワーディングになってしまったのだが、集計結果は同一ではなく、度数分布でも標準偏差でも、相違が見られる。これは、回答者は設問内容よりも、記載された2003年調査結果に影響されるといえる。つまり、デルファイ調査の有する同調性が、意見集約機能とは無関係にこうした形で現れたのかもしれない。

＜自由回答＞

▲問9（自由回答）の回答結果を、以下に表にして記載する。

▲問9 「高齢者モデル居住圏構想」の取組みについて、またそれ以外にもご意見がございましたら、ご自由にお書き下さい。

2	折角創った組織、制度であるがあまりにも多方面に拡大し当初の目的から乖離しているのでは。
3	行政やかかわり上、このモデル居住圏構想に参加することとなったが、一般住民は昔ながらのやり方や手法があり、新しい企画に加わる者はいつも決まった人たちばかりである。住民のニーズにあった取り組みはタイムリーにある程度住民の要望があったものから、取り組む方が、長続きするのではないかと思う。今回の取り組みは起爆剤的な役割をしていると思うので今後の継続が本当の成果になると思う。
4	サラリーマン世帯(全国的)の6割が将来農業生産者を体験したいとの希望があり、何かを作る喜びにより「生きがい」を見い出されれば幸甚だと思う。
33	取り組みが総花的でコンセプトが不明確。スローガンだけでは何も生まれないと思う。一世代前の取り組み方法で、もっと重点的な施策が必要。
36	各種事業に於いて、何事もトップダウンであり、住民の意思が何ら取り込まれてなく、内容が無意味なものになっている。現状をよく知ってから事業を実施すべきである。
39	高齢者モデル居住圏UIターン促進事業が更なる発展を示し一層の成果が上がることを期待しております。
42	一般高齢者だけでなく障害者の高齢者もいます。ノーマライゼーション的な居住圏構想であることを祈ります。
56	見守りネットワーク作りの点については評価いたします(ハイテク化)しかし、元気高齢者(介護認定外)は何も対処されていないようです。何か病気にでもならないと、何もサービスはありません。(予算はないのですから!)介護保険外は、予算上何もしなくても当たり前という考え方は、逆に早く病気になるさいということと同様です。農漁業の衰退で、何もすることがなく、公共の手助けもない。体も歩ければほとんど介護保険適応外で、何も手助けなしという、ある程度元気な高齢者にとって、これほど生きがいのないことはないでしょう。体が、少しでも元気なうちに、少しでも楽しく過ごせる世の中にしてもらいたいものです。老健施設の利用も現在入所困難な状態ですが、行政は予算がないとか、もうすぐ人口減少になるので増設は不可能とか言っていますが、今の老人が今困っているのですから、今増やしてもらわなければ意味がありません!今現在の老人の立場になったら(自分ではどうしようもない人、老人)必ず無理でも増設するはずですよ!!なぜ他の観光施設はすぐ増設や新設できるのですか?その調査の回答をしてもらいたいものです。
94	町民の生活の中に浸透していないなあと感じる。
102	合併後の新町でできるような取り組みは、モデル居住圏の事務局でやる必要はない。したがって事務局をなくし、新町にしっかりした形でひきつぐのがベストだと思う。

114	人にはそれぞれ得意なことがあり、ちょっとしたことでなかなかできないことが多いです。技術がある人にはなんでもないことでも、何かの仕事をしてもらった時には代金を払うのではなく、券を発行してその券をあげる。仕事をした人はその券をもらい、自分ができないことがある時にその券を使ってやってもらう。そんなシステムを作っている自治体もあると聞いています。(名前が分からなくてすみません)そんなのがあったらいいなあいつも思っています。
116	高齢者モデル居住圏構想へ取り組んでいる姿勢が住民にわかる様、年に一度イベントを開催し理解を得ることが必要だと思う。周防大島ボランティア活動推進協議会にボランティア登録
164	高齢化・介護・いきがい等の問題は、いつかは自分の問題として深くかかわってくると思います。まずは、人にやさしく接する事の大切さとは何かを考えて行動していかなければと思います。
183	無料の橋で本土と連結している。島内より、1時間あれば、本土へ行くことができる。この様ないわば中途半端な地域で上記の取り組みを行うことに、意義があるのであろうか。また、この周防大島町は高齢者の絶対数が多い訳ではない。むしろ若年者が少ないのだ。そして、この点こそが一番問題点と考える。いわゆる”働き手”を増加させずに、いろいろな取り組みを行うことは、若年者の負担を増やし、若年者を疲れさせ、よけいに若者の島離れをおこすのではないかと懸念する。
184	自分には関係がない、と思っている人たちにいかに関心をもたせるか。みんな年齢をとる。とる前にとってからのことを考える。想像力を呼び起こすようなもっていき方をしないと、一人よがりでおわる。若い世代への積極的な働きかけが大事。小・中・高生に向けて何かを！
207	高齢者に対しての取組は大変構想は良くできている社会だと思う。だが、60才前後の対象等ももう少し必要ではと思う現在である。全くそう思う。
215	高齢者モデル居住圏構想の取組について行政主導のためか、末端住民に全くしんとうしていない。主旨はよいが、行政と一部の関係者のみの活動に終始している。啓もう活動も全くない。このアンケートで活動内容がわかったくらいです。行政主導でなく、各地区の意見をとり入れたものにすべきです。
240	取り組み始めは全国から注目され地域の中でもいろいろな事業が展開されたが年を追うごとにしりすぼみ状態であり、今は何に取り組んでいるのか。取り組みによって地域にどんな効果をもたらしたのかが見えてこない。
254	関係者のみの活動のように思える。住民への誘いもお役所仕事で浸透してないと思う。仕事が福祉関係であるが「高齢者モデル……」活動全くみえない。
258	自分の住んでいる町がどのように発展しようとしているのか。今の自分の工事におわれて関心の低さに痛感している。もっとわかりやすい言葉やイメージでアピールしてもらえばもう少し趣味がもてるかな？
263	モデル居住圏でどんな事業をやっているのかよくわからない。役場の職員ですら知らない人も多い。一般住民はもっとわからないだろう。合併を目前にして、これまでの居住圏の取組みが合併と連動しているとは思えない。この取組みで合併協議が円滑になったんだろうか。郡の住民の一体感とか行政から与えられて感じるものじゃないのでは、まして県から……。悪いことをしているわけではないのに、住民、役場の職員ですら冷めているのは、多くの人が必要性を感じてないからでは。

大島「デルファイ法」アンケート調査

2004年1月20日作成

この調査票は、デルファイ法にもとづくアンケート調査票です。これは昨年
に実施させていただいたアンケート調査の分析精度を高めるために行うもので、
昨年度の調査対象になっていただいたみなさんのご意見を改めておうかがいす
るものです。お忙しい中まことに恐縮ではございますが、なにとぞご協力のほ
どお願い申し上げます。

御記入にあたってのお願い

- (1) この調査票にはお名前を記入する必要はありません。
また、お答えになりたくない質問は無理にお答えいただかなくてかまいません。
- (2) ご回答が終わりましたら、この調査票を同封の返信用封筒に入れて、
 月 日（ ）まで
に投函してください。切手は必要ありません。
- (3) このアンケートについてなにか御不明な点などがございましたら、下記の間合わせ
先まで、電話もしくはファクシミリにてご連絡ください。

問い合わせ先：

山口県立大学社会福祉学部 社会学Ⅱ研究室（電話およびファクシミリ 083-928-4778）

九州大学大学院人間環境学研究院 地域福祉社会学研究室
教授 小川全夫

山口県立大学社会福祉学部 社会学Ⅱ研究室
助教授 高野和良

はじめに、統計処理に必要な社会的属性についてうかがいます。ページ右側に図示されている
 昨年アンケート結果をご参考に、あなたの社会的属性をページ左側の回答欄にご記入下さい。

問1 フェイス項目

(今回調査のご回答)

あなたは男性ですか、女性ですか。
 番号を選んで、○で囲んでください。

1. 男性 2. 女性

(前回調査の集計結果)

	人数	%
男性	169	30.7
女性	376	68.4
不明	5	0.9
合計	550	100.0

あなたは現在何歳ですか。
 数字で記入してください。

() 歳

	年数
平均年齢	41.5
最年少	19
最年長	71

あなたが現在お住まいの町を番号で選んで、
 ○で囲んでください。

1. 大島町 2. 久賀町 3. 橘町
 4. 東和町 5. その他

	人数	%
大島町	163	29.6
久賀町	93	16.9
橘町	125	22.7
東和町	94	17.1
その他	69	12.5
不明	6	1.1
合計	550	100.0

あなたの仕事は次のうちどれになりますか。
 番号をひとつだけ選んで、○で囲んでください。

1. 事務職（役場などの公務員）
 2. 事務職（民間施設の事務職員）
 3. 医療・保健専門職（公務員も含む）
 4. 福祉関係専門職（公務員も含む）
 5. その他（具体的に)

	人数	%
事務職（公務）	70	12.7
事務職（民間）	20	3.6
医療・保健専門職	170	30.9
福祉関係専門職	238	43.3
その他	40	7.3
不明	12	2.2
合計	550	100.0

以下の設問では、ページ右側に図示されている昨年のアンケート結果をご参考に、あなたのご意見にあてはまる選択肢をページ左側の回答欄にご記入下さい。

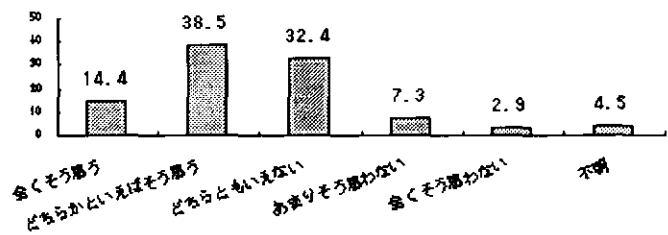
問2 この地域では、市町村が県と一緒に、独自の地域政策である「高齢者モデル居住圏構想」に取り組んでいます。この取り組みについてどう思われますか。それぞれについて、あてはまるものの番号を○を囲んでお答え下さい。

(今回調査のご回答)

(前回調査の集計結果) n=550、単位：%、以下同様

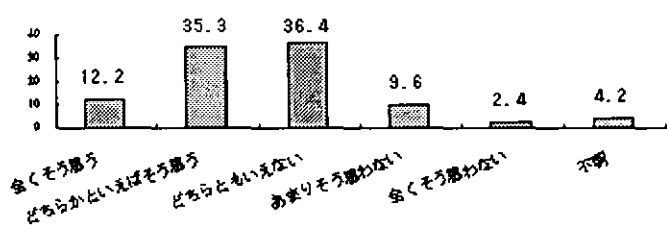
各町を越えた広域的な取り組みは評価できる

全くそう思う 1
どちらかといえばそう思う 2
どちらともいえない 3
あまりそう思わない 4
全くそう思わない 5



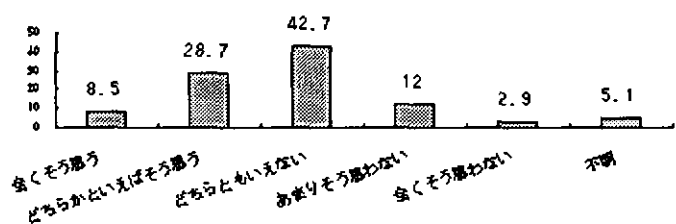
様々な住民活動と連携する取り組みは評価できる

全くそう思う 1
どちらかといえばそう思う 2
どちらともいえない 3
あまりそう思わない 4
全くそう思わない 5



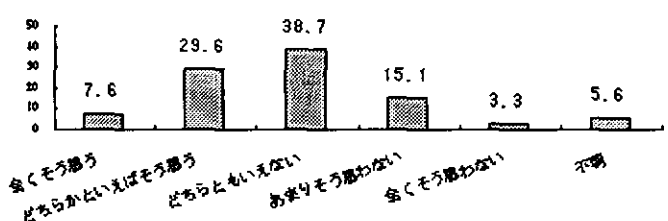
縦割り行政を越えた連携を進めていることは評価できる

全くそう思う 1
どちらかといえばそう思う 2
どちらともいえない 3
あまりそう思わない 4
全くそう思わない 5



新しい電子情報技術の導入は評価できる

全くそう思う 1
どちらかといえばそう思う 2
どちらともいえない 3
あまりそう思わない 4
全くそう思わない 5



地方分権をこ
推進するこ
として評
価できる

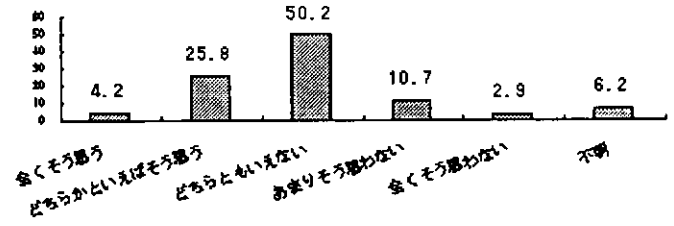
全く
そう
思う 1

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
そ
う
思
う 2

ど
ち
ら
と
も
い
え
な
い 3

あ
ま
り
そ
う
思
わ
な
い 4

全
く
そ
う
思
わ
な
い 5



現場で住民
と接して
職員の持
ちよきを
よく反映
している
と評価
できる

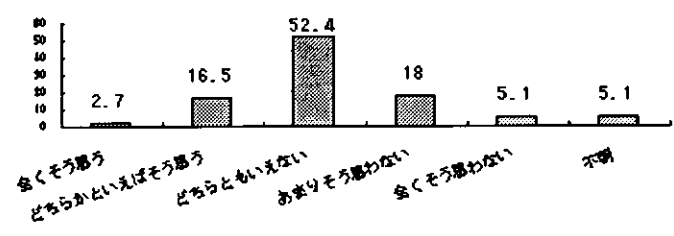
全く
そう
思う 1

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
そ
う
思
う 2

ど
ち
ら
と
も
い
え
な
い 3

あ
ま
り
そ
う
思
わ
な
い 4

全
く
そ
う
思
わ
な
い 5



住民の日頃
の生活を
よく反映
している
と評価
できる

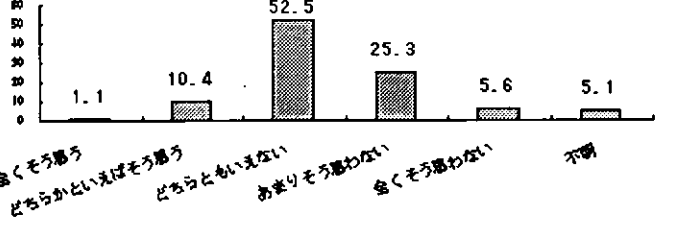
全く
そう
思う 1

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
そ
う
思
う 2

ど
ち
ら
と
も
い
え
な
い 3

あ
ま
り
そ
う
思
わ
な
い 4

全
く
そ
う
思
わ
な
い 5



財政予算の
相対する
事業を
よく出
している
と評価
できる

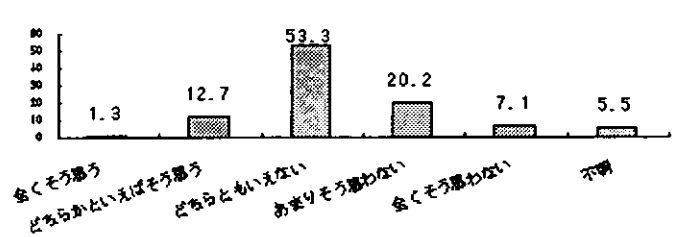
全く
そう
思う 1

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
そ
う
思
う 2

ど
ち
ら
と
も
い
え
な
い 3

あ
ま
り
そ
う
思
わ
な
い 4

全
く
そ
う
思
わ
な
い 5



色々な波
が及んで
いると
評価
できる

全く
そう
思う 1

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
そ
う
思
う 2

ど
ち
ら
と
も
い
え
な
い 3

あ
ま
り
そ
う
思
わ
な
い 4

全
く
そ
う
思
わ
な
い 5

